



11/9
9:30~12:30
ながくてエコハウス
多目的室

長久手市では、「いろんな生き物や自然とふれあえる」、「地球を温暖化から守る」、「資源を大切に使う」という3つの暮らしを叶えるため、第4次長久手環境基本計画を策定していきます。皆さんの暮らしに直結するとともに、世界で起きている様々な問題を同時解決する可能性がある計画となります。そこで、長久手市の環境を考えていくことは、世界のどこかの何かしらの問題を解決できるということを体感していただくために、世界中が取組む目標 SDGs のカードゲーム「2030SDGs」を行いました。参加者は、29人。ファシリテーターは、興亜商事（株）代表取締役 奥村雄介氏です。

1 SDGsって何？

SDGsは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2016年から2030年の15年間で達成する行動計画となります。2015年国連加盟国の全会一致で採択されたのですが、加盟国は193か国。世界の国は196か国（※日本が認めている国の数）だから、ほとんどの国がコミットしていることとなります。つまり、このSDGsを使いこなすことができれば、自治体も企業も日本や世界で高い評価を受けることとなります。

持続可能な開発とは、今だけでなく未来のことも含んだ開発のことで、この達成のために必要な3つの要素があります。「経済」「環境」「社会」。この3つの要素の向上と調和が不可欠と言われています。

また、「誰一人のこさない」という理念も重要です。

SDGsのゴールを見ていきましょう。1



から6までのゴールは、どんな人たちのゴール？ 発展途上国のこと？ 7から12くらいは、先進国？ 13以降は？ 世界全体？どこをターゲットにするかの一筋縄では決められないゴール。そのゴールたちは複雑であるからこそ、みんなが当事者となって考えていかなければならないのです。

2 カードゲーム「SDGs 2030」

2人から3人のグループにプロジェクトやゴール、お金、時間などのカードが配布されました。ゲームの成否は、配布されたゴールのカード（「大いなる富」「悠々自適」



「貧困撲滅の聖者」「環境保護の闘士」「人間賛歌の伝道師」)を達成できたかどうかで判断します。現実の世界もこのように様々な価値観をもった人がいるのです。その違う価値観を持った人とどう合意してプロジェクトを進めていくかがカギとなります。

ゲームは行動タイムを2回繰り返します。行動タイムは自由にプロジェクトを行うことができます。プロジェクトは、必要なお金と時間を集めて、事務局に持って行き、得られるものをもらい、プロジェクトを行ったことによるホワイトボードの

「世界の状況メーター（経済・環境・社会）」を自分で変えていきます。

それでは、前半の行動タイムスタート！

自分のグループの目標達成のために、プロジェクトを進めたり、他のグループに交渉したり・・・時には、プロジェクト実施のため事務局に並ぶが、「世界の状況メーター」の状況により実施できないグループもいたりします。

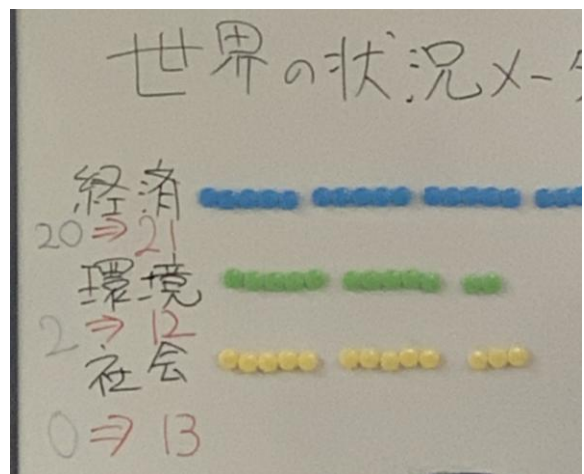


前半終了！ここで、ファシリテーターによる世界の状況の発表。なんと、「経済」がダントツで20、「環境」は2、「社会」はゼロ。経済は絶好調かもしれないけど、すべての人が豊かでしょうか？

「どういう世界を作れば、豊かな世界になるのか」

後半の行動タイムはこのことを念頭にスタート！世界は変わっていきました。後半終了時には、「経済」は、20から21へ。「環境」は2から12へ。「社会」は0から13に変化しました。

ここで、みなさんに感想を伺います。前半と後半、それぞれ何を意識し、何が変わって、行動もどう変わったのか。「前半は、お金を稼ぐことを意識した」「余裕ができれば、社会に貢献する共同プロジェクト



を行うようになった」「早くに目標を達成したので全体最適を目指して行動した」「最初は自分のところしか見なかったけど、後半は、他のグループも見erようになった。」「どうやって交渉するか、価値観が違う人とどうやってベクトルを合わせていくか」などという意見が出ました。

3 SDGsの本質って？

ゲームを振り返り、SDGsの本質について考えてみました。

①世界はつながっている

今、地球で起こっていることを想像してみます。私たちが食べているポテトチップス。実は地球温暖化を引き起こしているのです。ポテトチップスはパーム油が使用されています。パーム油を生産するアブラヤシ農園は、熱帯の樹林を切り開いて作られます。私たちがポテトチップスを食べるにより、大量で安価なパーム油を消費している結果、森林が消えていくのです。価格的に安く、安定して供給することが求められているので安い労働力で生産されている現実もあります。私たちがポテトチップスを食べるにより、想像もできない問題が遠い世界で起きているのです。

つまり、「風が吹けば桶屋が儲かる」という言葉もあるように、すべてのことは、何かにつながっていて相互依存している関係性があるのです。

ゲームでは、前半よりも後半の成果に変化があり、一人ひとりの行動が世界（「世界の状況メーター（経済・環境・社会）」）に影響を与えていて、つながりの変化を体感できたと思います。つまり、「私も起点」なのです。世界はつながっているからこそ、みんなで同じ目標を持ち、行動していくことが重要なのです。

②世界が目指す目標を「見える化」し、共有することによって行動が変わる。

後半、「世界の状況メーター」で現状を共有し、意識することにより、みなさんの行動が変わりました。前に進むには、他の状況にも目を向けなければならないし、経済も循環しないと、環境も社会も発展しない。共有して、行動するかしないかは、自分次第。

4 SDGs達成のために・・・

人類共通の目標SDGs達成のために、重要なことは「自分を思いやれないと他人も思いやれない」ということ。そして「周りの状況を知る」ことも重要ですが、同時に「自分たちの状況を伝える」ことも重要となります。そのことが、世界全体が動き出すきっかけとなります。

そして、横断的なパートナーシップを多くの人と結んでいくことで、より良い豊かな世界を作っていくことが今後重要となります。一人ひとりの行動が世界を変える。無関係な人など誰もいません。

最後に7分間、自分自身が住むまちにおいて、できることを見つめる自分自身の時間を設け終了しました。

より良い世界のために取り組みたいSDGsのアイコンをボードに描かれた木に貼り、誰もが主人公である長久手のSDGsの森の木を作りあげました。

